



落穂会だより

春季号 2013.4

社会福祉法人 落穂会 障害児入所施設 障害者支援施設 地域生活支援センター 障害者支援施設 障害福祉サービス事業

あさひが丘学園 (Tel 238-4821) あさひが丘 (Tel 238-4821) あさひが丘 (Tel 243-1112) 旭福祉センター (Tel 244-3551) 第二旭福祉センター (Tel 244-3551)

鹿児島市皆与志町2503番地 (Tel 238-4821) http://www.asahigaokagakuen.jp/ http://www2.synapse.ne.jp/asahi-center/



「はっぴーエコプラザ」

タイヨ一
—地域生活支援センター あさひが丘—
三月六日(水)タイヨ一吉田店にて「はっぴーエコプラザ吉田」のオープニングセレモニーが行われました。「はっぴーエコプラザ」はタイヨ一吉田店を回収場として、社会福祉団体に場所を提供し、毎週水曜日にお客様に資源ごみを持ち込んで、資源ごみを持って来られたお客様に対して、タイヨ一吉田店のみで使えるグリーン券(一品10%オフ)を渡し買い物を楽しんでもらうという取り組みです。回収した資源ごみはリサイクル業者に引き取ってもらい、その売り上げは社会福祉団体の収益となります。「はっぴーエコプラザ」はタイヨ一の社会貢献活動の一環で、環境保全の促進と障害者の自立支援を目的としています。今回、地域生活支援センターあさひが丘の就労継続支援B型「ワークショップあすもね」に株式会社タイヨ一様からお話を頂き、実施に向けて準備を進めてきました。

実際に活動しているグラード伊集院店に足を運び、作業の様子を見学させてもらい、担当者から細かい注意事項などを確認させて頂きました。

迎えた当日は、オープニングセレモニーの後から早速、資源ごみを持って多くのお客様が来店しました。最初は緊張し、声を出すことや受け取りがなかなかうまく出来なかった利用者も少しずつ慣れ始め、元気な声であいさつや呼び込みなどを積極的に行う姿が見られるようになりました。一日を通して回収作業を行った利用者の表情は、日に焼けるながらも、とても満足そうな表情をしていたのが印象的でした。今回、資源ごみの回収作業を通じて、地域の方とふれあうことで私たちの事を知っていただき、地域とのつながりを持つ良い機会となりました。このような機会を頂いた株式会社タイヨ一様に感謝し、利用者・職員全員で「はっぴーエコプラザ」を盛り上げていきたいと思っております。

新入所者紹介

◆障害児入所施設 あさひが丘学園
中島 優衣さん
いつも元気です。お友だちとなかよくしたいです。

新通所者紹介

◆旭福祉センター
中島 翼さん
おともだちとげんきいっぱいあそびたいです。小学校もがんばります。

退所者

◆障害児入所施設 あさひが丘学園
平岡 裕太郎さん
皆に名前をおぼえてもらえようがんばります。

新任職員紹介

◆障害児入所施設 あさひが丘学園
新福 孔一さん (ケアホーム つばさ丸)
窪 晃さん (ゆうかり学園)
川野 亮介さん (自宅へ)
吉留 夏恵 支援員
皆さんの笑顔が沢山見られるよう頑張りますので宜しくお願いします。

中村 貴巳 保育士
二度の実習経験を活かして、一意専心、利用者様の為に頑張ります。

渡邊 久美 保育士
笑顔忘れず、利用者と共に成長していきたいです。

西川 太一 保育士
フレッシュな年齢とは言いがたいですが、新任らしくがんばります。

森本 裕也 支援員
日々努力し専門知識を深め皆様の役に立てる様に頑張ります。

前村 幸 支援員
みなさんといういろいろな経験を通して、日々楽しみながら共に成長していきたいです。

◆障害者支援施設 あさひが丘
堯 一成 支援員
利用者の個性を尊重し一人一人が笑顔になれる支援を目指します。

平山 史人 支援員
利用者の方々が毎日笑顔で安全に過ごせるように頑張ります。

藤元 祐 事務員
日々の仕事を一つ一つ丁寧に着実に遂行していきたいと思っております。

◆地域生活支援センター あさひが丘
【児童発達支援・放課後デイ】
胸元 健 支援員
一からのスタートですが、よろしくお願ひ致します。

樺山 智子 保育士
かわいい子供さんのためにお役にたてますようがんばります。

山田 光美 支援員
毎日、かわいい子どもたちがいやされています。

白石 瞳 保育士
初心を忘れず、素直な心持ちで頑張りたいと思っております。

尾上 智昭 運転士
安全に子供達を送迎する事を心がけています。

◆ガーデンキッズマルヤ・セルク
蒔野 博江 統括主任
一つ一つの出会いを大切に、支援を広げ深めていけるよう努めます。

小平田 典子 チーフ保育士
子ども一人一人を大切に保育に努めます。

垣本 庄輝 セルクサブチーフ
利用者、職員に信頼されるよう日々努力していきたいと思っております。

岡部 恵 保育士
子供達といっぱい関わって一緒に成長していきたいです。

園田 梨華 保育士
子どもたちの「できた」を共に喜び合い、応援していきたいと思っております。

松本 みどり 臨床発達心理士
皆さんとたくさんコミュニケーションをとって仲良くなりたいです。

◆旭福祉センター
辰巳 愛理 支援員
利用者の方と共に働く喜びを感じながら、何事にも積極的に行動し頑張っていきます。

暁 美奈代 支援員
利用者さんに親しみやすく、かつ、頼られる職員を目指したいです。

中村 翼 支援員
新社会人としてわからないことが沢山あるので色々なことを学び頑張っていきたいです。

坂元 沙和香 栄養士
美味しい献立を作っていけるよう頑張ります。

杉田 哲史 支援員
まだまだ分からないことばかりですが、一生懸命頑張ります。よろしくお願ひ致します。

平成二十五年 運 營 方 針

◆あさひが丘学園

園長 水流 純 大

平成二十五年四月より障害者総合支援法が施行されるが、障害程度区分の見直しやグループホームとケアホームの一元化など主な制度改正の論点は来年度以降に先送りされた。来年度以降の制度改正の検討状況を見極めながら今年度は下記の事項を重点目標に掲げ事業を推進する。

- ① 利用者の個別ニーズを的確に把握し、そのニーズに応じたサービスの提供が行えるような専門的支援技術の向上を図る。
- ② 入所利用者の生活の質を向上させる取り組みを推進する。今年度は特に余暇の充実を図ることを目標とする。

のニーズに合った余暇提供を行う。休日の余暇支援については外部のボランティア等の協力を得て、余暇活動の充実を図る。

- ③ 利用者一人一人のニーズに応じた日中活動(生活介護)の充実を図る。新たな創作・芸術活動への取り組みや各活動科間の交流体験の機会を設け、新しい活動の体験や個々の能力を引き出せるように支援するとともに、レクリエーション活動や運動プログラムの充実を図る。
- ④ 職員研修を充実させるとともに、職員の人材育成を推進するために教育・研修要綱を作成する。幹部職員及びその他の職員の職能要件書を完成させ、幹部職員については目標管理シートを導入し、職務遂行能力の向上を図る。また、勤務年数や勤務の習熟度による教育・研修要綱を作成し、各職員が目標を明確にしたうえで業務遂行ができるシステムを構築する。
- ⑤ 障害児入所施設の小規模グループケアの新築工事、乗馬療法の土地造成工事、ケアホームの改築工事等の施設整備を行う。

プケア施設の整備要望が認められた場合、障害児入所施設の新築工事及び既存施設の一部改築工事を行う。また、乗馬療法実施予定敷地の土地造成工事、排水設備工事、ケアホームの改築工事を行う予定である。

◆地域生活支援センターあさひが丘

管理者 水流 恭 史

地域生活支援センターあさひが丘が開設し、半年が経過した。各事業においてサービスの提供体制が整いつつあるところである。今年度は、さらにサービスを安定的に提供できるように体制づくりや、サービスの質の向上に努めていきたい。また、地域の方に施設を開放するなど、地域に貢献できるように取り組みを具体的に実施していく。各事業については、以下のことを重点目標として掲げ、運営を行う。

- ① 地域生活支援センターについての広報活動を積極的に行い、利用者の増大を図る。
- ② 就労Bにおいては、利用者を受け入れる体制を整え、働く喜びや自分の役割意識を持てるような取り組みを行う。

毎月平均七〇〇〇円以上の工賃を支給できるように、作業種の拡大に努める。また、施設近隣の空き缶、ごみ拾いの活動を毎月実施する。

- ③ 児童発達支援センターにおいては、利用者の支援を充実させるために関係機関との連携を図るよう努めるとともに、活動内容を工夫し、療育の充実を図る。
- ④ グループホームにおいては、地域との交流を促進し、地域住民にグループホーム利用者に理解してもらえようように努める。
- ⑤ ホームヘルプサービスにおいては、利用者の利用者の希望になるべく応じられるよう、業務を工夫する。また、個別のニーズに応じたサービス提供ができるよう、職員が自己研鑽に努める。
- ⑥ 相談支援においては、計画相談を滞りなく受け入れることができるよう相談支援専門員の活動体制を整え、計画相談に関する質を高め

◆旭福祉センター

第二旭福祉センター施設長 水流 健 一

平成二十四年四月一日より当事業所、旭福祉センターは新体系(就労移行・生活訓練・就労継続支援B型・施設入所支援の多機能型事業所)へ移行して二年目を迎える。今年度は新法の動向も踏まえつつ、以下の事項を今年度の重点目標に掲げ、質の高いサービス提供を行う。

- ① 利用者のニーズに合わせた支援の提供
- ② 家族との連携強化
- ③ 職員の育成システムを確立する。

両輪となる。よって援助技術・作業技術両面におけるスキルの向上を目指し、職員個々人のスキルアップを目標とした、研修・実習等への積極的参加と社内研修の充実を図る。

- ④ 人事制度の適切な運用
- ⑤ 地域密着型の施設サービス推進
- ⑥ 各種作業部門 製販計画の達成

◆ガーデンキッズマルヤ・セルク

管理者 水流 かおる

平成二十三年四月一日より天文館にあるマルヤガーデンズ内三階に、生徒二カ月から就学前までのお子

まに月極め保育または一時預かり保育を提供する認可外保育園として運営を開始した。交通の利便性に優れた場所、きめ細やかな保育を行っている。

- ① 療育内容の充実を図るため職員の資質向上を図る。
- ② 専門的な療育を行うために専門職の導入を図る。

個別療育、および家族支援を今年度も継続する。また、子どもの発達段階を適切に把握するためにK式発達検査を行い支援計画に反映させる。

- ③ 家族支援が適切に行えるシステムを構築する
- ④ 子どもたちのライフステージを見据え関係機関との連携を図る
- ⑤ 地域貢献の一貫として保健センターが開催するプログラムへ職員を派遣する

日中活動での交流



あさひが丘学園

鶴丸高等学校 施設訪問学習

交流を前に



←どれにしようかなあ？

あさひが丘学園

新年会バイキング

→大熱唱のカラオケ大会



→カレーコーナーには行列が…



→最後は万歳三唱



新年会

旭福祉センター



←新任職員による出し物も大盛り上がり！



←今年も一年頑張ろう！

すなっふ スナツプ

地域生活支援センター



美味しい食事を笑顔がこぼれます

クルーフォーム・ケアホーム 新年会



新任・中途採用
職員研修

→初心を忘れず頑張ります。



あさひが丘学園

テーマ別研修

→知的障害のある人と共に四十年



ナイスハートバザール



どれにしようかなあ

旭福祉センター



お花がきれいな家でした。

一日旅行



←イルカと記念撮影！

↓きれいな魚がいっぱい



←みんな笑顔です。

旭福祉センター

「楽しいひと」

あさひが丘学園 利用者
みわちやん

「座間市から鹿児島へ」

旭福祉センター 保護者
岩 正 芳 知

社会見学で、はくぶつかんとフレスポに行きました。マックでお昼ごはんを食べました。本屋でアンパンマンの本を買いました。楽しかったです。あとは、ジョギングウォーキング(大会)でいっしょけんめい走りました。

あとは、けっこんしきに行きました。千草寮のしょくいんとけっこんしたのはやさしい男性の方です。けっこんおめでとございます。

休みは、アンパンマンくらぶを見ます。アンパンマンくらぶでアンパンマンを火・水に見ました。アンパンマンがよけるのがおもしろかったです。アンパンマンとにこさんを見てやさしいアンパンマンがニコニコよけてよかったです。アンパンマンともりくんどつちも好きです。

あとは、現場実習であさひが丘でトンカチでねん土をトントンしました。ごもねん土でトンカチでトントンしました。最後まで実習をがんばりました。

去年五月二十九日に座間市から引越してきました。私が0歳から二十二歳まで過ごした地域であり、十二年前の妻の死後は、夏休みに毎年帰省していたので、拓也も環境変化にそれほど戸惑うことはなかったです。

座間養護学校から座間アガベセンターへは順調に移行しましたが、段々短期入所日だけ仕事に行き、他日は市内のゴミ拾いをしていました。小学校六年生時と中学三年生時に、市長から「善行表彰」をもらったのが励みだったのか？

座間市に居た時の土曜日は電車で上野公園・江ノ島・鎌倉・小田原・横浜に行きました。急な変更には理解不能です。二〇一一年三月十一日の東日本大震災。三月十二日鎌倉に行く予定日。

「地震の後で電車は間引運転で鎌倉まで行けるかどうか解らないから行けないよ。」と、説明しても納得しないので行きました。なんとか行けましたが、親が困っている子供の「コダワリ」

を他人に理解して欲しいとも思うが理解出来ないものは「理解は難しいでしょうね」

退職後は、自由時間は十分に有りますが、今までは時間が無く仕事の合間で、福祉手続きもして来ました。昼、拓也を車で「旭福祉センター」へ連れて行くことが出来るのは、退職後であるからこそ出来る事です。

私はスポーツが好きです。体を動かすことで気分転換だけでなく仲間とのコミュニケーションの場にもなるだけでなく、普段学べないことも学べる場だからです。

「アイスホッケーを 通して学んだこと」



旭福祉センター 職員
碓 元 勇 樹

大学では、アイスホッケー部に所属していました。サッカーと似たルールですが、ラグビーのように激しいぶつかり合いがある「氷上の格闘技」ともいわれるスポーツです。

と言ってもリンク(氷場)が無いので普段はひたすら基礎練習と体力づくりをしていました。地味で辛いことも多く、何度も諦めそうになりましたが、その度に先輩の励ましや

同級生との切磋琢磨。目標への共通意識、仲間意識の向上が「頑張ろう」という意識につながっていたように思います。

長期休暇になると県外のリンクまで遠征をして活動していました。始めてリンクに立った時の事はいまだに覚えています。重い防具を着けているのに重さを感じず軽やかに滑り、リンク上を自由に動きまわった感動や基礎練習の成果が出たという達成感、自由に動ける楽しさなど色んなことを感じました。

私たちの代で部員不足となり大会に参加できなくなっていました。辞めようと思うことも何度もありましたがグラウンドホッケーなど競技体系を変えながらも最後まで続けられたのは大変な環境の中、最後まで残っていた仲間のおかげだと思います。ホッケーは団体競技なので、一人ではできません。今まで頑張ってきた仲間と一緒に目標に向かって取り組む姿勢や諦めない心、達成した時の喜びを学びました。

悩みや苦勞を共に解決し、目標に向かって一歩でも進んでいけるように。喜びを一緒に分かち合えるような「仲間」を持つ大切さを大事にして日々を過ごしていきたいです。

さんぽみち

あさひが丘学園

●新年会

一月十六日(水)にあさひが丘学園食堂にて新年会バイキングがありました。利用者、職員合わせて百二十八名の方が参加しました。やきそば、から揚げ、おでん、デザート盛りなど、利用者の方々からのリクエストメニューを目の前に、みなさん目を輝かせていました。数多くあるメニューの中からの一番人気はカレーライスでした。午後からは、カラオケを行いました。それぞれの方が好きな曲を歌ったり、踊ったりして、大変盛り上がった時間となりました。

●グループホーム新年会

今年も二月十七日に、スパランドかららにて、グループホームの新年会をおこないました。新年会は、利用者の皆さんが、とても楽しみにされている行事の一つで、おしゃべりに気遣う方、着物を着て参加される方もいる程です。

初回は利用者十名程で始まった毎年恒例の新年会ですが、今年の利用者二十五名・職員十六名の計四十一名の方が参加され、大変にぎやかで大盛り上がり新年会となりました。皆さんそれぞれに、美味しい料理やカラオケを楽しみ、普段では見られない表情を見せてくださいました。

今年も、成人式を迎えた方のお祝いもしてはという案も出て、サブ

イズを企画しました。スパランドからのスタッフの方の協力を頂き、宴会の途中、会場の照明が突然消え、舞台のカーテンが開くと、キヤンドルを灯した大きなケーキが用意されているという演出に、皆さん大喜びでした。成人を迎えた三名の方も、たくさんの方にお祝いして頂き、嬉しそうな笑顔のなか、成人を迎えてこれからの抱負を述べてくださいました。

今年も、グループホームの皆さん全員揃って新年会に参加できた喜びと、今年も一年健康で過ごせますようにという願いを込めて万歳三唱で宴会終了となりました。

●テーマ別研修報告「知的障害のある人と共に四十年」

二月十九日(火)に、テーマ別研修「知的障害のある人と共に四十年」というテーマで、あさひが丘学園元支援課長の松下重満氏より講話がありました。

講話の中では、障害者支援の知識の必要性や利用者の方を支える保護者の思いなどについて資料をもとに話が進みました。特に、彼らの一生を台無しにしてはならない。最後のページに書かれていたことは印象に残りました。

●鶴丸高等学校施設訪問学習

三月十一日(月)、鶴丸高等学校の施設訪問学習が、あさひが丘学園で行われました。一年生二十六名(男子十七名、女子九名)が利用者との交流を深め各活動に参加しました。

参加した高校生のほとんどが初めての体験であり不安や緊張もあったようでした。説明後、各活動場所へ移動し、利用者の方々との生産作業(建築資材備品の制作)や陶芸、歩行、創作活動に取り組んでいます。活動へ一緒に取り組み始め自然と表情も和らぎ、あちらこちらで笑顔や笑い声がみられるようになりました。帰る頃には、来たときの表情とは違い利用者の方々との触れ合いから何かを感じとったような表情や雰囲気を感じ取れました。

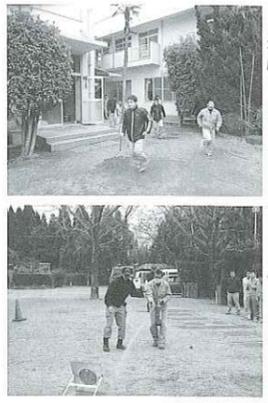
旭福祉センター

●新年会

一月二十七日(日)鹿児島サンロイヤルホテルにて新年会を開催しました。当日、施設長から新年の挨拶があったあと、乾杯をし、食事や、余興、みんなが一番楽しみにしていた抽選会など、盛り上がる企画ばかりでした。また、今回はサンロイヤルホテル特製のカレーコーナーが設置され、あつという間に行列ができ、皆さん喜んでいました。今年もまた新たな気持ちで、利用者、職員が一体となり何事にも取り組んでいこうと改めて感じた新年会でした。

●避難訓練

二月十四日(木)夜間を想定して避難訓練を行いました。吉野分遣隊の方から訓練についての説明を受け、実際に消火器を使った訓練を行いました。消火器を使った利用者は真剣



←皆真剣な表情です
←実際に使ってみました

●一日旅行

三月二十日(祝日)に一日旅行で水族館に行きました。水族館に入るなり各グループにわかれて館内を見まわりました。イルカショーでは、魚とイルカの違いについて学び、支援員さんの合図でイルカがジャンプしたり、しっぽを上下にばたつかせて泳ぐ姿を見て「すごい」と声を上げて手を叩く姿がみられました。

桜島レインボーでの昼食は、目の前にあるご馳走に目を輝かせて周りの利用者とおしゃべりをしながらお腹一杯食べて、カラオケでは振り付けを自分で考えて歌の合間にいれてみたりと盛り上がりました。ゆつたり館では、手にとつてはみたものの買おうか買わないか迷っている方や両手いっぱいにお土産を抱えてレジに並んでいる方もいました。帰りのバスの中では今日一日のことを話し来年はどこに行こうかと早々と話していました。